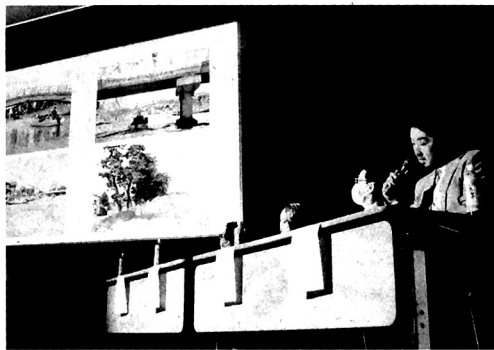


# 貞山運河 利活用考える

## 仙台 観光関係者ら議論



貞山運河の利活用について議論を交わす  
パネリスト（15日、仙台市青葉区で）

阿武隈川から塩釜湾に延びる貞山運河の利活用を考える「貞山運河サミット」が15日、仙台市青葉区の市福祉プラザで開かれた。

貞山運河を生かして地域活性化を目指す一般社団法人「貞山運河ネット」が主催。運河周辺の自治体の観

光協会関係者ら5人が登壇して話し合った。

名取市観光物産協会の佐々木洋会長は、今年5月から閑上地区で始まった貞山運河を巡る周遊船「ゆりあげ丸」を紹介。「運河を通して（仙台市など）北と結ぶ事業ができれば、被災地

に新たなぎわいが生まれる」と期待した。元多賀城市観光協会事務局長の高倉敏明さん（71）は「周辺の自治体が連携して県へ制度や環境づくりを働きかける必要がある」と呼びかけた。

貞山運河は全長31・5キロ。仙台藩主・伊達政宗が城下町建設のため、木材を運ぶ輸送路として開削を始めたとされる。会場で議論を聞いた太白区の土屋貫治さん（78）は「屋形船を運航してもいいのでは。歴史ある運河が全国に広まればうれしい」と話していた。